



特集 その後どのように暮らしていますか？

建物の古さを活かしたオールサッシの家



特集 その後どのように暮らしていますか？

建物の古さを活かしたアールサッシの家

東京都東村山市 | 戸建リノベーション | K邸 (ご夫婦+お子様1人)

1 ストーリー

今回ご紹介するのは、丸みを帯びた窓(アールサッシ)がかわいらしいK様邸。ご夫婦と息子さんの3人暮らしです。外壁のタイルなどもレトロな築約40年の中古住宅を奥様が不動産サイトで見つけ、建築士のご主人が設計。相羽建設が施工しました。「建築家と仕事をしている地域の工務店を探したんです」とご主人。戸建リノベを選んだ

理由を伺うと「古いものが好きなんです。あとアトリエが欲しかったので予算との兼ね合いで」と縫製のお仕事をなさる奥様が教えてくださいました。以前のお住まいと同じ西武新宿線沿線で物件を探し、東村山市にお引越しい。「西武新宿線はアクセスがいいのに穴場だねってよく話すん

ですよ」と奥様が仰るように、K様邸は賑わう駅前から徒歩5分ほどですが、近くに川が流れのどかな雰囲気。「ご飯屋さんも多いですし」(奥様)と、周辺環境にも満足されている様子です。こだわりが詰まった住まいの設計ポイントや暮らし心地を伺いました。



改修前

2

素材感が心地良い 2階空間

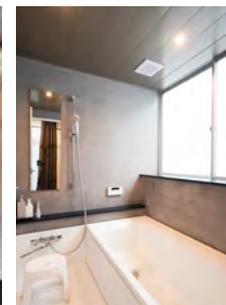
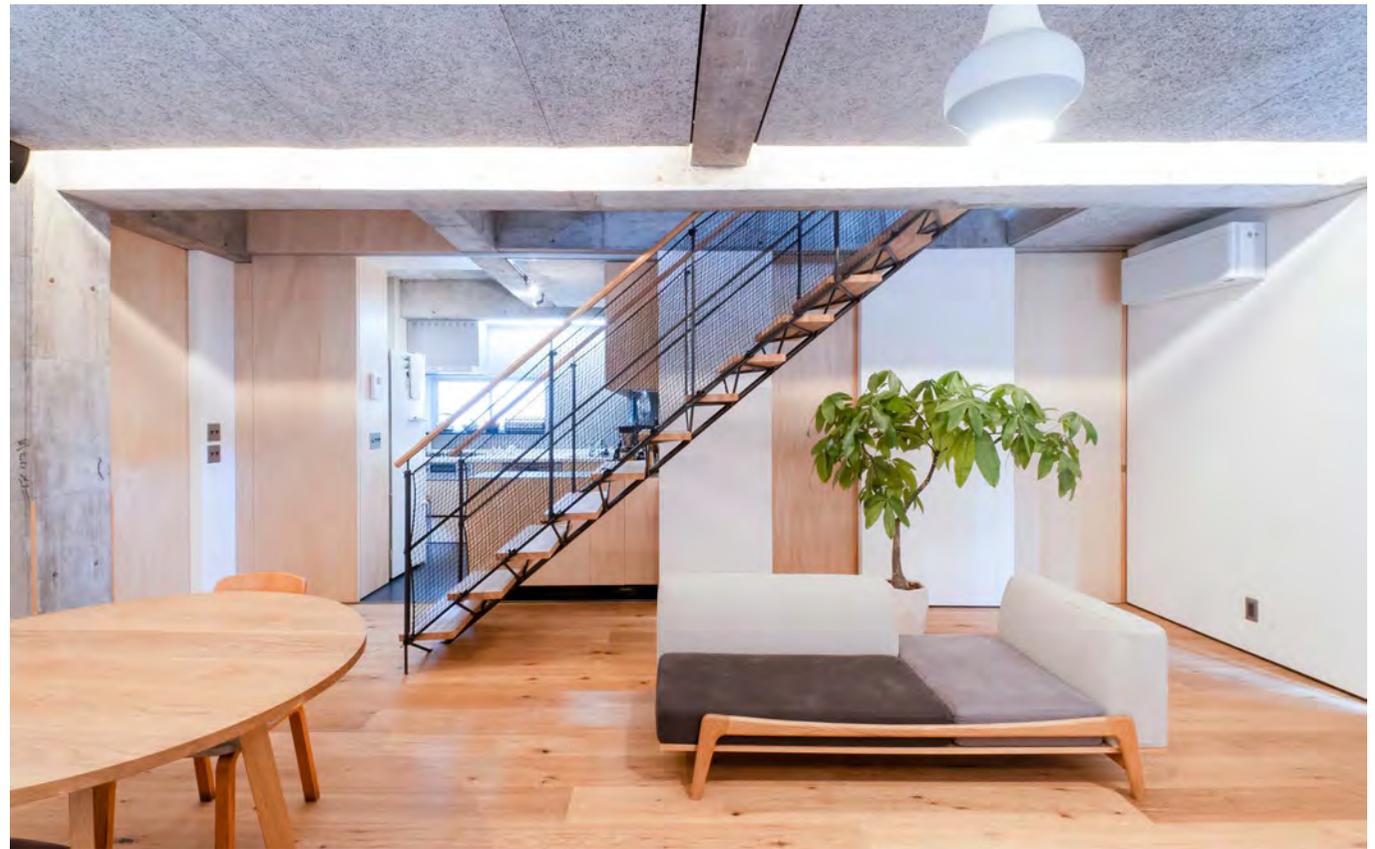
アールサッシの窓から陽がたっぷり入る2階リビングが家族みんなのお気に入りです。空間の顔と言える鉄骨の階段もご主人がデザインしました。「時折階段に腰掛けて、子どもがお茶を飲んでいるんですよ」とご主人。その姿を想像ただけでほっこりしますね。設計のテーマは“建築を素に戻す”こと。「建物が築約40年の鉄筋コンクリート造なので、購入時に耐久性に問題がないか調査してもらったんです。そうしたら100年持つという結果だったので」(ご主人)と、元々の建築の良さを活かすことに。増築部分などは削ぎ落とし、躯体のコンクリートの質感に合わせて、木毛セメント板やオーク、真鍮といった素材をセレクトしました。また枠がない建具や隠された収納など、空間をすっきり見せるための工夫が散りばめられています。暮らしながら設置した窓側の収納には、おもちゃがぎっしり。箱から取り出して心ゆくまでプラレールを繋げる息子さんの姿に「のびのび遊べるのがいいですね」と奥様が微笑みます。するとご主人も加わってプラレールを重ねた建築づくりに発展。この広いリビングでたくさんの創造が生まれていきそうです。



キッチンカウンターはご主人がDIYで施工。



1. 建具がシャープなリビング。2. ブラインドが収まるアールサッシの窓枠は大工・益子さんの力作。天井にプロジェクターを設置。3. 玄関横にも収納がたっぷり。4. 5. 水まわりも素材感を合わせてモルタル塗りに。



2F BEFORE



2F AFTER

3 住まいのみどころ



1.コロナ禍で大活躍のアトリエ。2.2階の床を抜き室内で行き来できる階段を新設。上部は収納。
3.見せる収納がアトリエを彩ります。4.ご主人が製作した階段の模型。5.アトリエの将来イメージ。



ご夫婦揃って 希望したアトリエ

1階のアトリエは、相羽建設が下地のみ施工、ご主人が内装をDIYで施工中。今後天井を張ったり本棚を追加したりする予定ですが「時間が取れなくて」とご主人は苦笑い。息子さんが成長し、3人並んでものづくりに集中する日が待ち遠しいですね。

外構のDIYも 今後の楽しみ

建物を囲っていた門や塀を撤去してオープンな雰囲気になった外観。コンクリート舗装の一部も削って、外観に映える緑を植えるスペースにしました。敷石や門柱を設置するなど、外構もご主人がDIY中。手を加えていく楽しみがたくさん残っています。



1.窓やピロティの丸みが柔らかな印象の外観。2.3.植栽で緩やかに境界を区切ります。4.門柱はギャビオン(蛇籠)。フレームを緑が覆っていく予定です。



1F BEFORE



1F AFTER

取材後記

取材が終わりかけた頃「電車の紹介もしてあげる!」とひとつ一つ解説しながら息子さんがずらり並べた自慢の電車コレクションの数々。満足がいったようで、にっこり微笑んでポーズを決めてくれました。取材へのご協力をありがとうございました!(記:ライター大川)

設計:木村 太一 施工:相羽建設
撮影取材・編集:伊藤・大川・猪股
ainoha/バックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>



特集 その後どのように暮らしていますか？

木と陽の温もり溢れる戸建てリノベ





特集 その後どのように暮らしていますか？

木と陽の温もり溢れる戸建てリノベ

東京都世田谷区 | 戸建リノベーション | H邸(ご夫婦+お子様4人)

1 ストーリー

今回ご紹介するのは、ご夫婦と息子さん4人で賑やかに住まいのH様邸。理想の空間を予算内で実現するため、H様がお探しになった中古の二世帯住宅を相羽建設の施工でフルリノベーションしました。大工のお父様の影響で建物や家具がお好きなご主人。以前お住まいだった賃貸の戸建も手を加えていたそう。手狭になったことから家を探し始め、

建築家・伊礼智さんの著書『「小さな家」70のレシピ』をきっかけに相羽建設と出会いました。「伊礼さんの本はそれまで見てきた家と違って、木の素材感が素敵でハッとしましたし、家づくりの考えに共感しました」とご主人。「相羽建設は要望を聞いてくださるんですけど職人気質もあ

ってブレない軸みたいなものを感じましたね」。奥様も「モデルハウスの『つむじ』を訪れて、こんな家に住みたいって思ったんです」と振り返ります。子育てにいい静かな住空間ができたこと、こだわりが詰まった住まいに満足していらっしゃる様子。みどころや住み心地を伺いました。



before

2

様々な表情を生む R天井の2階LDK

生活の中心となるLDKは、日当たりを考慮して2階に設けました。大きな引き戸を開け放つと、バルコニーが第二のリビングのように続きます。「『つむじ』のようなせり出したバルコニーが、お庭に出る感覚でいいなと思ってお願いしたんです」と奥様。ご夫婦揃ってお気に入りのは弧を描く天井。夜には間接照明がふわりと広がるそう。「旅行から帰ってきてもうちがいいよねって言っています。うちにいるのがいつも嬉しくて」と奥様が声を弾ませて教えてくださいました。ご主人も「担当の和田さんにイメージを伝えたら、きちんと形にしてくださって」と微笑みます。キッチンは家族の気配を感じつつ、リビングダイニングから見えにくい造りにして空間をスッキリと。ご主人がDIYをした家具や、アンティークの照明などが馴染みます。「伊礼さんの本に、家具は低い方がいいとあったので、大工の工藤さんをお願いしてダイニングテーブルの脚を切ってもらったんです」とご主人。理想の暮らしをご自身の手で造り上げていらっしゃるようです。ご家族が成長するにつれてどんな住まいになっていくのか、これからも楽しみです。



テーブルに合わせ肘掛を切ってペイントしたダイニングチェア。



1. 空間を優しく包むR天井。木の大きなガラリ戸もお気に入り。2.バルコニーにもDIYした椅子が並びます。
3. キッチンタイルはアクセントに青をセレクト。4. ソファの肘掛けに板を貼って使いやすくカスタマイズ。
5. 一角にデスクを造り付けてワークスペースに。



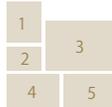
3

住まいのみどころ

随所に散りばめた おもてなしの心

ご主人が牧師をなさっていることから、来客が多いH様邸。友人たちにも気軽に泊まってもらえるようにと、水廻りも備えたゲストルームを設けました。どの空間もご主人がDIYした家具が彩り、ご夫婦のおもてなしの心を感じられます。

1.2.3.LDK横のゲストルーム。ガラス戸とカーテンで仕切られます。4人目のお子様が生まれて間もない頃は、キッチンが近いこちらで過ごしていたそう。4.5.1階の音楽室。声楽を学ばれていた奥様が、将来的にレッスンを開ければと予定しているそう。



リノベーションで 明るく変化

室内だけでなく、庭やデッキなど外の空間も美しく生まれ変わりました。造園は「つむじ」の庭を手掛けた小林賢二さんに依頼。エントランスから庭のデッキへと回遊できる造りで、家の外をぐるりと息子さんが走り回ります。



1.木張りの浴室もこだわりポイント。掃除が趣味のご主人が毎日磨き綺麗に保っています。2.3.階段幅を広げて玄関ホールを明るく。4.5.6.エントランスから庭まで木や草花が植えられ、白い外壁に映えます。



取材後記

コロナ禍にも関わらず取材にご協力いただいたお礼をお伝えすると、ご主人がお祈りをしてくださいました。すると教会でなくても神聖な空気に。木のフローリングにゴロンとなって過ごすお子様を眺めながら、少しでも早く平穏な毎日が戻りますようにとお願いしました。(記:ライター大川)



設計・施工:相羽建設
撮影取材・編集:伊藤・大川・猪股
ainohaバックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>





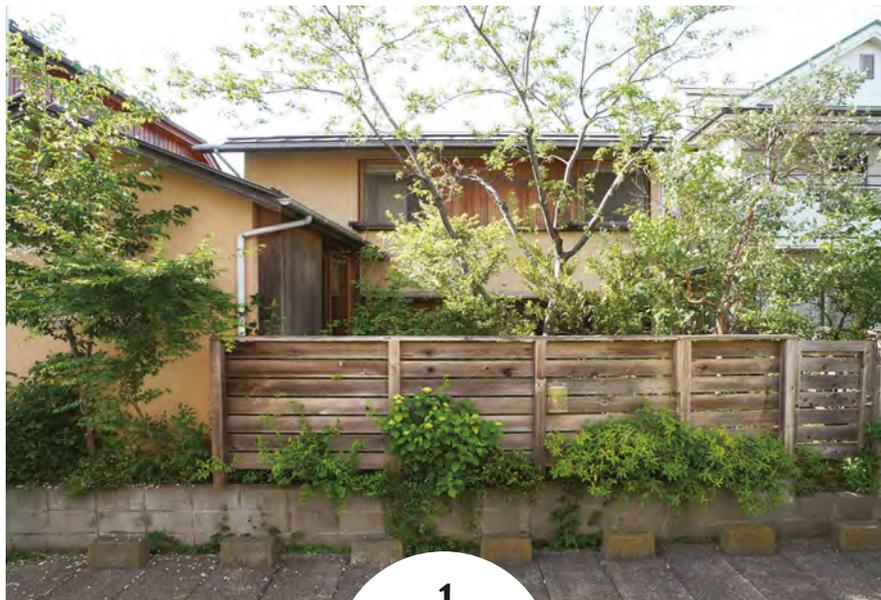
特集 その後どのように暮らしていますか？

15年の年月を経て

特集 その後どのように暮らしていますか？

15年の年月を経て

東京都東久留米市 | 木造一戸建て(建築家と建てる家) | 相羽邸(ご夫婦+お子様2人)



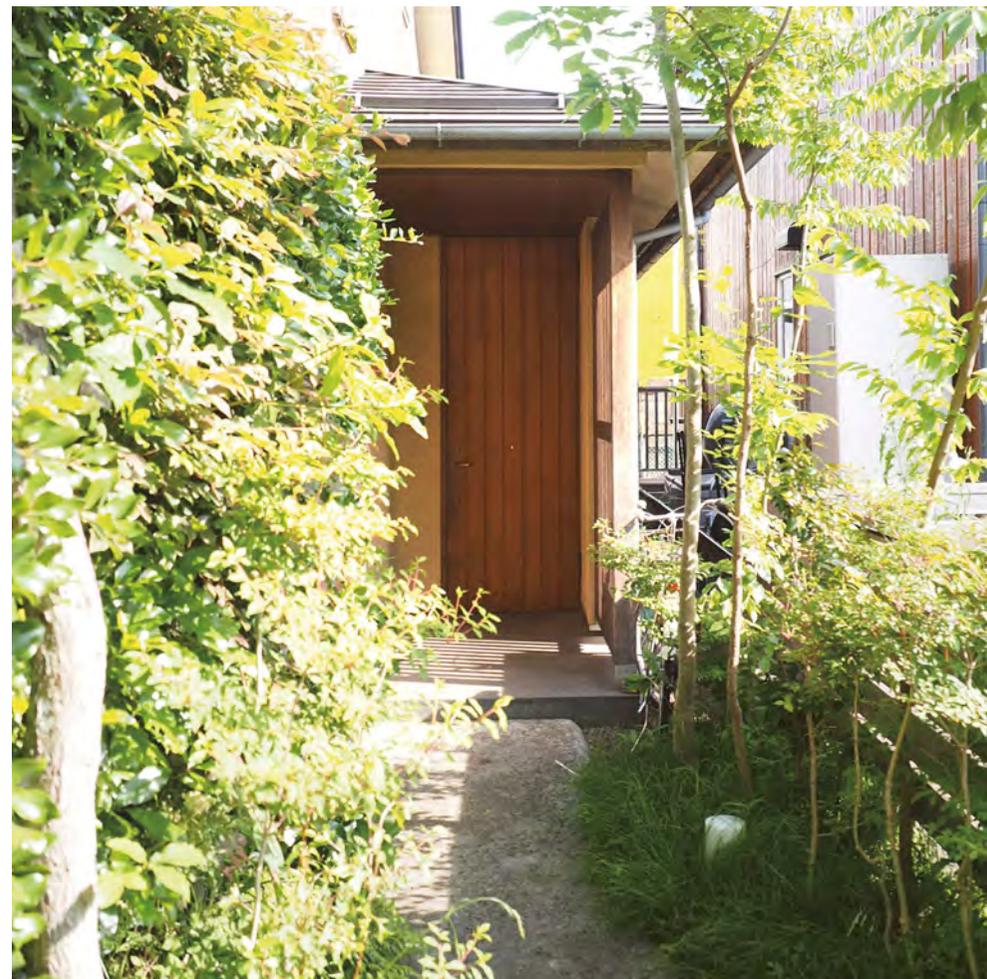
1

ストーリー

今回紹介するのは、竣工から15年目を迎えた当社社長の相羽邸。自然素材の床は色艶を増し、大きく育った庭の木々からこぼれる日差しが家中に溢れる気持ちがいい住まいです。先日、お子さんの個室を設けるため、寝室を仕切るリフォームを行った際に、15年間家族の成長に寄り添ってきた家への思いや、現在の暮らしぶりについて伺いました。

上のお子さん生まれたのをきっかけに家づくりを考え始めた当時の要望は、『人が集まる家』、『職場から近い』、『動きのある家』、『床座の生活』の4つでした。

「『人が集まる家にしたい』という要望通り、たくさんの友人が遊びに来てくれました。この場所、この家で子育てができて、家族との時間が過ぎて本当によかったです。ただ『職場に近い』という要望に関しては、建てた1年後に会社自体が引っ越してしまって!」と笑って振り返る奥様。



2

穏やかな時間が流れる 畳のリビング

新築の際、設計をお願いしたのはN設計の永田昌民さん。『動きのある家にしたい』という要望を受けて永田さんが描いてくださったプランがスキップフロアの家。玄関から階段を下りて1mほど地面に潜るようにリビングがあります。そうすることで建物の高さが低く抑えられてこじんまりとした見た目の良さと、北側に建つ家の日射を少しでも遮らずに済むという利点もありました。またリビングの窓の高さはちょうど庭とおなじくらい。見上げる庭の木々はより一層大きく見え、地表を覆う小さな草花が寄り添っていているような穏やかな時間が流れる空間になっています。

そして『床座の生活』という要望からリビングは畳に。畳のリビングに馴染みがなく、奥様は提案当初使い勝手に不安があったということですが、「子どものおむつ替えが頻繁な時期もそのまま寝転がらせたり、転んでもクッション性があったり、友人が遊びに来たら雑魚寝をしたりと、我が家には合っていたと思っています。」と子育て当時に振り返り穏やかに語っていただきました。



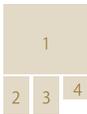
- | | | |
|---|----------------------------------|----------------------|
| 1 | 1.庭に近い窓際は特等席。床座とはまた違う目線で庭や空間を楽しむ | |
| 2 | 3,4 | 2.玄関ホールの小窓からリビングを眺める |
| 5 | 3,4,5 | 3,4,5.ご主人の部屋と書斎 |
- 5.キッチン天板は木。オイルでお手入れしながら15年、まだまだ使えそうですとのこと



3 15年目のリフォーム



1.家具や建具を同じ素材で制作。統一感のある空間に2.建具の取手は収納の引手に干渉しないように彫り込まれ、握り心地もよく3.大容量の収納で片付けも進む4.入口より全体を望む



緩やかに仕切る 子ども部屋

リフォームプランは小泉誠さんに依頼。完全な個室ではなく緩やかに間仕切られているので、お互いに存在を感じながらいい距離感で過ごすことができます。また上があいていることで空調も増設せずすみ、工事の負担も費用も抑えることができました。

施工期間を短くし 工事の負担を軽く



「共働きのためまとまった時間を取りづらいので出来るだけ家での作業を少なくしてほしい」という要望から、あらかじめ加工場で家具やパーツを加工してから搬入。現場での作業は組立を主とすることで、工事期間を最小限にしました。

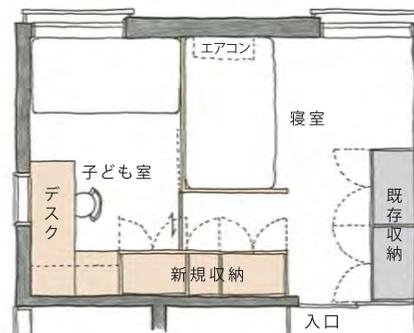


左 加工場での家具制作の様子。
右 取り付けの様子。あらかじめ作ることで精度のいい仕上がりにもつながる。



PLAN

今回のリフォーム部分



before

「共有の収納ではなく個の空間に自分の収納を作ったことで、子どもが自発的に片付けをするようになりました」と嬉しい報告をいただきました。

取材後記

「子どもと川の字で寝る暮らしが名残惜しく、広い空間を間仕切ることにも抵抗があってリフォームを延ばし延ばしにしていたんです。でもいざ完成してみると「リフォームしてよかった!」というのが素直な感想。子どもが巣立ったら隣の部屋も私がもらおうと思っています」と奥様。子どもの成長は嬉しくも名残惜しくもある…その気持ちに非常に共感しつつ、それでも「よかった!」といってもらえて、心がほっと温まりました。(広報:猪股)



設計: 永田昌民(竣工時)・小泉誠(リフォーム部分) / 施工: 相羽建設
撮影取材・編集: 伊藤・相羽・橋詰・猪股
ainoha/バックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>



工事風景を
Youtubeに
公開中です!



子ども部屋の間仕切り・造作棚